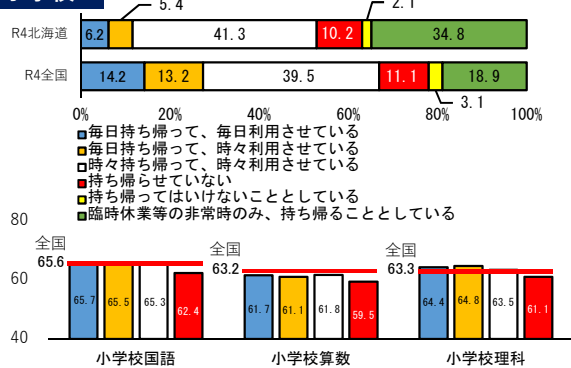


## (4)望ましい学習習慣の確立

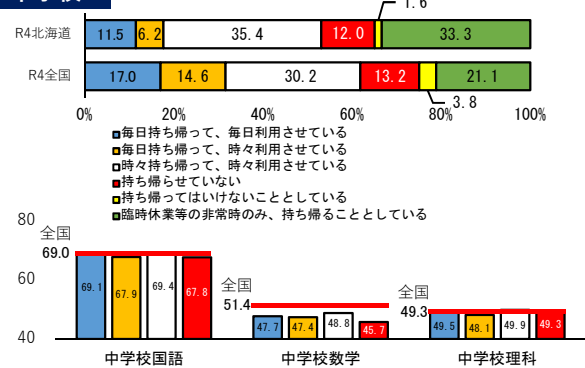
### 〔分析〕

「児童生徒一人一人に配備されたP C・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」（学校質問紙）

#### 小学校

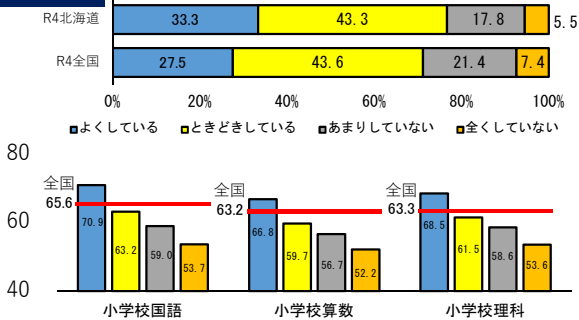


#### 中学校

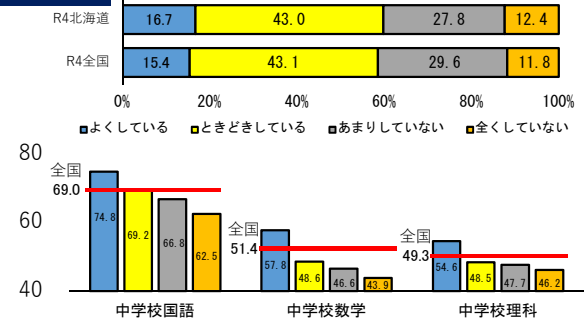


「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」（児童生徒質問紙）

#### 小学校

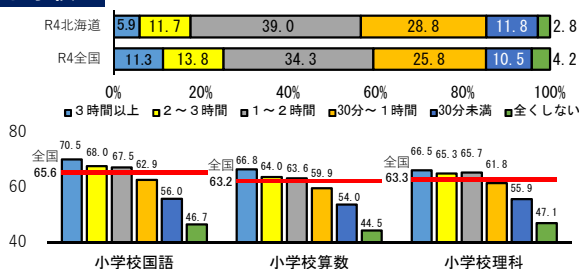


#### 中学校

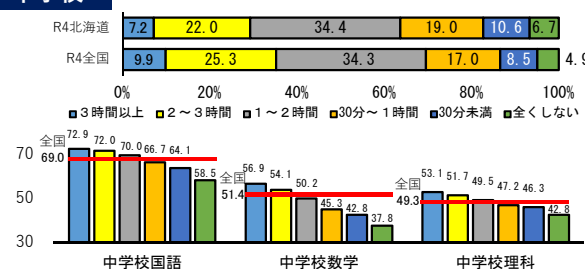


「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」（児童生徒質問紙）

#### 小学校



#### 中学校



### 〔分析から明らかになったこと〕

- 1人1台端末を持ち帰って家庭で利用できるようにしている学校の方が、持ち帰らせていない学校に比べて平均正答率が高い傾向がある。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向がある。
- 授業時間以外の学習時間が長い児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向があるが、1時間以上勉強をする児童生徒の割合は、全国に比べて低い状況が見られる。

### 〔望ましい学習習慣の確立に向けて〕

- **端末の活用や学習塾等との連携による授業時間以外の学習の充実**
  - ・ 家庭学習の質の向上に向け、1人1台端末を効果的に活用することが大切です。
  - ・ 地域の人材等と連携して児童生徒に放課後等の学習機会を提供するなど、地域全体で児童生徒の学習を支援することが大切です。

### 取組のポイント

- eポータルによるクラウドサービスの活用促進
- 学習アプリの選択による個別最適な学びの充実
- MEXCBT（メクビット）による学力調査問題の活用

### 実践の概要

#### eポータルによるクラウドサービスの活用促進



- ・1人1台端末のデスクトップ上に個々に保存していたドリルアプリを全てeポータルを窓口として起動できるように整理

ドリルアプリの窓口を一本化することにより、アプリごとにログインする必要がなくなったり、学習履歴を残したりできるようになるなど、児童にとっても教師にとってもクラウドサービスが一層活用しやすいものとなるようにしています。

#### 学習アプリの選択による個別最適な学びの充実



- ・計算の技能の練習をしたい児童が選択する計算ドリルアプリや、技能の活用など思考力を問う問題に取り組みたい児童が選択するアプリなど、自分自身の学びたいことに合わせてドリルを選択

定着に自信のない児童は、ノートを活用して学び直しをしてもよいことを伝えるなど、児童一人一人の学習状況に合った家庭学習に取り組むことができるようにしています。

#### MEXCBT（メクビット）による学力調査問題の活用

|                                     |                                                                                                        |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名称                                  | <br>MEXCBT<br>メクビット |
| 全国学力・学習状況調査                         |                                                                                                        |
| 中学校卒業程度認定試験                         |                                                                                                        |
| 高等学校卒業程度認定試験                        |                                                                                                        |
| 全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題               |                                                                                                        |
| PISA（国際学力調査）の公開問題（2015、2018）        |                                                                                                        |
| 情報モラル学習問題                           |                                                                                                        |
| 千葉県作成「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気学習ガイド」    |                                                                                                        |
| 山口県作成「やまぐち学習支援プログラム」                |                                                                                                        |
| さいたま市作成「基礎学力定着プログラム」                |                                                                                                        |
| 岩手県作成「岩手県学習定着度状況調査」「岩手県中学1年生英語確認調査」 |                                                                                                        |
| 幸手市作成「パワーアップシート」「確認テスト」             |                                                                                                        |
| 実用英語技能検定                            |                                                                                                        |
| 実用数学技能検定                            |                                                                                                        |
| テスト作成サイトで教員等が作成した独自問題               |                                                                                                        |

- ・文部科学省CBTシステム（メクビット）に搭載された問題の中から、既習の内容で取り組むことができる問題を選び、第6学年以外の学年にも配信

全国調査の問題など、学習指導要領で求められる資質・能力が問われる問題に触れる機会を増やすことにより、児童自身が身に付いた力を実感し、自らの学習状況の自覚を促すことができるようにしています。

### 取組の成果

- 児童から「6年生が取り組むような難しい問題が解けてうれしかった」「他の県の問題など、色々な問題があって楽しい」「家庭学習で色々な問題にチャレンジしたい」などの感想が聞かれるなど、児童に学ぶ楽しさを実感させ、家庭学習への主体性を高めることができた。

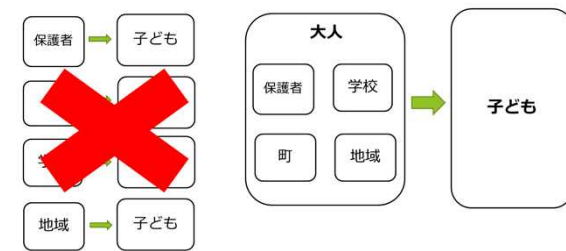
## 取組のポイント

- より多くの大人との関わりを創出する民営塾との連携
- 1人1台端末の活用によるオンラインでの実施
- 学校との連携による学習効果の充実

## 実践の概要

### より多くの大人との関わりを創出する民営塾との連携

#### 大人の役割



保護者、町、学校、地域が別々の立場ではなく、子どもの成長を促す「大人」という大きな枠組みとして位置づけ

・比布町では、「全ての大人が教師として、それぞれの立場で可能な経験の場を提供する」という方針の下、民営塾と連携し、「比布チャレンジゼミ」を実施

「経験」は比布町の教育を具現化するための柱という考え方と方針が一致した民営塾と連携することにより、点数の向上だけではなく、子どもの成長や人生を見据えた取組として位置付けています。

### 1人1台端末の活用によるオンラインでの実施



- ・学校に配備した1人1台端末を活用し、比布チャレンジゼミをオンラインで実施
- ・オンラインでの実施により、講師を確保

オンラインで実施することにより、対面での授業よりも生徒一人一人の学びに向かう力の差が影響するという課題はありますが、生徒が自宅から参加したり、講師の移動時間をなくしたりするなど、実施自体のハードルを下げるにつながっています。

### 学校との連携による学習効果の充実

- ・生徒の学習状況を共有するために、学校の教員と民営塾との面談を実施
- ・比布チャレンジゼミの実施日程や、周知、集約、1人1台端末の持ち帰り日程などについて、学校と連携して調整

学校と民営塾が別々に生徒に関わるのではなく、それぞれの場での生徒の状況を共有することにより、学校と民営塾の双方で生徒一人一人の実情や学習状況に応じた指導を充実し、個別最適な学びを実現できるようにしています。

## 取組の成果

- 実施から10年以上が経過し、生徒の学習への主体性や進路の実現に向けた意欲を高めるきっかけとして定着した。
- 講師との出会いや自分に合った学習方法との出会いなど、学校以外の場において、新たな経験の場を創出することができた。